

第7回現生及び化石渦鞭毛藻国際会議 (Dino7) 開催

2003年9月21日から25日に長崎市において第7回現生及び化石渦鞭毛藻国際会議 (7th International Conference on Modern and Fossil Dinoflagellates; Dino 7) が開催予定である。

この国際研究会議は1978年に第1回がアメリカ合衆国(コロラドスプリングス)で開催された後、ほぼ4年に一度、世界各地で開催され、長崎での開催は第7回になる。今回の会議で取り上げる主要なテーマは、進化(分子生物学的系統分類や生活史)、現在や過去の生産、現在や過去の海洋循環や環境、化学産生物の化石(化学化石)記録、有害・有毒種の生理・生態、などである。長崎での会議では最近の社会的課題として重要性が指摘されている沿岸海域の海洋環境保全と修復という観点から、また開催地域が海洋資源の活用と保全を特に重要視しているという観点から、渦鞭毛藻によるブルームが主要なテーマになる。

原生生物界の主要な一群である渦鞭毛藻は真核生物の中でも、1) おそらく先カンブリア代に起源を持ち、その進化過程において原核生物や真核生物との共生が行われてきたこと、2) その結果として種多様性が極めて高く、海域・淡水域に広く分布していること、3) 従って化石記録が豊富で、中生代以降の標準化石として重要であり、それが石油資源探査に活用されていること、4) 現在の海域でも基礎生産者として珪藻に次ぐ重要な位置を占めていること、5) 最近の特に沿岸域で広域化と多発化している有害・有毒赤潮の主要原因生物群であること、などの特徴をもつ。このような渦鞭毛藻について系

統分類学的、生態学的、生物化学的、古生物学的、古海洋学的観点からすなわち生物学研究者と古生物学研究者とが一堂に会し、種々の異なった研究手法を通して渦鞭毛藻研究への理解を深めることを目的としている。

国内組織委員会と事務局は以下の通りである。また、2nd circularが下記のホームページで公表されており、参加手続きもインターネットで行える。

国内組織委員会

松岡数充 長崎大学水産学部沿岸環境学研究室
 福代康夫 東京大学アジア生物資源環境研究センター
 堀口健雄 北海道大学大学院生物科学専攻
 栗田裕司 新潟大学理学部地質科学教室
 吉田 誠 長崎大学水産学部沿岸環境学研究室

DINO 7 事務局:

松岡数充・吉田 誠
 長崎大学水産学部沿岸環境学研究室
 852-8521 長崎市文教町 1-14
 Tel. +81-95 847 1111 ext. 3184 (松岡数充) / 3116 (吉田 誠)
 Fax. +81-95 844 3516
 E-mail: f0590@ cc.nagasaki-u.ac.jp or dino7@csc.jp
 Homepage address: <http://www.fish.nagasaki-u.ac.jp/DINO7/>

〈藻類学会のホームページアドレス変更のお知らせ〉

このたび、学会のホームページが国立情報学研究所のホームページサイトに移設されました。これに伴いアドレスが変更になりましたので、お知らせいたします。新しいアドレスは、<http://www.soc.nii.ac.jp/jsp/default.html> です。

編集後記

平成14年12月より、和文誌「藻類」の編集委員長を仰せつかりました。編集委員長といっても何をしたらよいかかわからず、前編集委員長、副委員長の田中さん、南雲さんに教えていただきながら、編集を進めたいと思っています。これまでの編集はMacで行われていましたので、Windows派の私にとってはよくわからず、編集の実務はほとんど倉島さんをお願いしている次第です。次号からは編集作業をWindows上で行えるようにするつもりです。藻類学会第27回大会は私どもの三重大学で開催されます。学会関係の記事、要旨を含みますので、年度の1号はいつもに比べ少し厚くなっております。論文はもちろん、シンポジウムの要旨、学会や講演会等の案内、その他いろいろな案内や記事など、和文誌は会員の皆様方で作る会誌です。今後ともご協力をお願いします (M.M.)

皆様の御協力のおかげで、多くの原稿が集まりました。初めての編集で、まだ分からない部分も多々ありますが、なんとか作業を終わらせる事ができ、一安心しております。これらからもよろしく願いいたします。(A.K.)